

## 酒井 秀典 国際学部 国際学科 2年

稲門高等学校出身  
2022.4 拓殖大学入学  
2023.8 インドネシア短期研修参加



訪問した高校の授業

## 初めての海外

### 【研修先の紹介】

今回、私が行ったインドネシア短期研修では、主にダルマ・プルサダ大学での授業や、そこに在籍する学生達との異国間交流を行いました。

インドネシアと日本の違い、それは宗教に対する価値観の捉え方が1番だと思います。インドネシアでは、ほとんどの人がどこかの宗教に入っており、大半がイスラム教です。日本ではあまり見受けられない、ヒジャブを巻いた女性は当たり前にて、お祈りの時間になると皆が同じ方向へ向かいます。これ等は、日本人の感性からすれば変わっていると思うかもしれませんが、国が違うだけで常識というのはいとも簡単に変わります。

### 【日常生活において】

インドネシアでの2週間の生活は非常に有意義かつ楽しいもので、日本に留まっているだけでは知り得ることの無い様々な初めてのたくさん経験する事ができました。私が何よりも深く印象に残っている事は、交通の面で異常なまでの車とバイクの多さです。例えるなら、日本の交通渋滞の時の様相を想像したら分かりやすいと思います。日本だと、あれだけ車に囲まれてしまっただけでは動きようがありませんが、インドネシアではそれが普通で当たり前な為、皆が特に気にする事無くスイスイと道を進めます。その他にも、基本的に私はタクシーを利用してプカシやジャカルタを観光していたのですが、窓から外を見てみると、バイクが脇を通り抜けていくのはごくごく当たり前で、その距離の近さに冷や冷やさされます。同じ日常とは言っても、日本とインドネシアではこれだけ大きな違いがあるのだと本当に驚きました。後で向こうの友達に聞いたところ、結構接触事故自体は起こ

らしいのですが、特に警察に頼ることなく本人達でどうにかするそうです。日本じゃ絶対考えられないですね。

### 【研修を通して得たことと、その成果を今後の学生生活や社会へどのように還元するかについて】

私は、この研修を経て得た事は何？と聞かれた時、即答で『当たり前への疑い』をするようになったと言えます。

先程も記述した通り、地球規模で見れば少し海を跨いだだけで、常識や人々が固定観念として抱いている当たり前はその色をガラリと変えます。日本の普通は、外国で普通じゃないとさせる時もあるし、逆に外国の普通が日本の普通では無い時もあります。要は、当たり前なんて人が1億人いれば1億通り違うのだと思います。だからこそ、自身が持っている当たり前だけに囚われず、他人が持っている当たり前を尊重する事が大切だという事をこの研修を通して学びました。

この成果は、今後の学生生活はもちろん社会に出たとしても非常に役に立って、私と他の人を差別化させてくれる強い武器になると考えます。何故なら、様々な考え方を柔軟に吸収できるという事は、他者から得るインプットがそれだけ多くなるからです。自身が何か大きな悩みを抱えた時や行き詰った時、蓄積されたインプットが必ず強い味方になってくれると思います。その時、狭い当たり前に囚われず広い視点で色々な種類の考え方や常識の十色を把握できていれば、行き詰っている自分が取るべき行動というのがより明確にはっきりとします。私は、自身が大きな分岐に立たされた時こそ、この研修で得た『当たり前への疑い』が強く発揮されると思っています。



道の隅



ダルマ・プルサダの学生との集合写真